

## 令和2年度1学期終業式 放送による式辞

令和2年7月31日

兵庫県立神戸北高等学校長 長澤 和弥

生徒の皆さん、おはようございます。

今度こそ、今年度初めて全学年が一堂に会せると思っていましたが、ここ最近の県内でのコロナ感染者数増加に鑑み、昨年度3学期終業式と同様、体育館には集まらずに放送によって終業式を行うことにしました。

今日何点かお話しする最初は、部活動の代替大会です。

現3年生は、新しい大学入学共通テストの初年となる学年として高校に入学しました。その一環として、鳴り物入りで創設された英語外部検定試験も、昨年直前になって突然中止という信じられない事態になりました。極めつけが新型コロナで、部活動の総体などの大会も全て中止になってしまいました。そのように色々なひどい目に遭ってきた3年生なので、どうしたら良いのだろう、学校としては何が出来るだろうと思っていましたが、部活動については、多くの競技で何とか代替大会が実施されることになりました。

既に大会が終わった部活動もありますが、先日は試合を見に行き、感動的な場面に立ち会うこともできました。基本的に全て無観客試合なので、校長であっても入れない競技も多いのですが、まだ大会が残っている競技もありますので、今後とも都合が許す限り、これらの代替大会を見に行きたいと思っています。これらの大会に参加する、特に3年生を最後まで応援したいと思います。

次に、北高祭と体育大会という大きな行事についても、最初から中止ありきではなく、時期や内容が変わろうとも、できる限りのものを行いたいと考えています。これも、代替大会と同様、特に3年生のことを考えてのことです。

さて、ここのところのコロナ渦の期間、悪いことばかりが起きているわけではありません。良いニュースもあります。このあと配付される「北高だより」でも紹介されていますが、3年生男子ハンドボール部の4名が、先日「のじぎく賞」を受賞しました。「のじぎく賞」とは、兵庫県が50年以上前から続けている、人命救助などの善行に対する権威ある表彰です。

6月13日土曜日、部活動から帰る途中の唐櫃台駅で、倒れて動けなくなっていた高齢の男性を救援したという行動が表彰されました。唐櫃台駅は無人駅なので、駅員さんと呼んで済ませるわけにはいきません。救急車を呼んだり、男性と話をして男性の携帯電話からご家族に電話したり、インターホンで神鉄に連絡したり、4人でチームワーク良く行動しました。4人には、神戸電鉄から感謝状も贈られました。

4人がこのような善行で「のじぎく賞」を受賞したことは、北高生全員にとって励みになるものだと思います。でも、「のじぎく賞」のような表彰は、最初から目指すものではありません。今回、彼らはたまたま、このように立派な表彰を受けることができましたが、ほかの皆さんも表彰とは関係なく、誰かのために小さな善行をすることは、「自分のため」になるのではないのでしょうか。

ちょうど1年前の1学期終業式で、そんな話をしました。「誰も見てないと思っても、必ず自分は見ている、知っている。だから、誰も見てなくても、良い行いをするのは、自分にプラスになるよ」と。同様に、誰も見てないからといって、悪い行いをする、自分自身にとってマイナスになるのです。

7月21日の読売新聞と神戸新聞の朝刊では、この日のことを記事にいただきました。特に読売新聞では、大きな記事で、ドキュメンタリーのように書いてくださいました。「読売新聞」と「のじぎく賞」で検索すれば、記事が出てきます。また、北高ブログでも詳細を書いています。

最後に、一点お知らせします。

ただいま、生徒会では、「北高キャラクター」を生み出そうとしています。北高のキャラクターなので、何か北高とのイメージ的つながりが必要だと思いましたが、原案はできています。生徒会としては、それらの中から一つを選んで欲しいのと、名前を考えて欲しいというお願いを全校生にしたいと思います。

それは、8月24日の始業式の日になると思います。良い名前のついた北高キャラクターが生まれれば、学校としては全力で応援して育てたいと思っています。目標の一つは、「着ぐるみ」です。生徒会から依頼があれば、ぜひ協力してあげてください。